

No. 625 (一九九六年一月一・二日合併号) から
No. 657 (一九九六年二月二一日) まで

No. 625 (一九九六年一月一・二日合併号)

◇巻頭言◇喜び、悲しみ、怒りを労働運動へ

松原 広
塩屋崎 あき江

『詩』耳を澄して

九六年は「新社会党」建設のとき — 一月党大会で事実上の流れ解散 —

労働運動再建への四つの課題

横堀 正一

— 一九九六年を労組再生の年に —

唯物史観の立場から 中澤秀行

— 階級および階級闘争・護憲について① —

「巻原発・住民投票」のこの一年 — 方の自治は輝いている —

高連増殖炉の開発中止、「もんじゅ」東結を

再論「労農派」三度目の出立

石河 康国

投票したい攻党、政治家がいない!

— 私鉄総連「アンケート調査」から —

叙勲制度は人間差別

関 晴正

読者からのおたより編集部日より

◇好評発売中上野建一著社会通信社刊◇政界再編後を読む―護憲の旗を掲げて

No. 626 (一九九六年一月二一日号)

◇巻頭言◇「新社会党」に結集するのが我々の責務

上野 建一

綱領・規約改訂阻止、社会党の歴史を守ろう

— 一月一九日大会は新党移行と同じ —

阪神大震災から一年、労働の権利は守られているか

黒崎 隆雄

— 労働・一雇用ホットライン活動から —

実態に依拠し、哲学・思想の確立

渡辺 和彦

— 九六春闘情勢をめぐる彼我の攻防と課題

「それでも階級は存在する」

中澤 秀行

— 階級および階級闘争・護憲について②

福井県今立町議会がもんじゅ廃炉で意見書

— 地方自治法第九九条第二項により提出 —

読者からのおたより:

◇好評発売中上野建一著社 会通信社刊◇

政界再編後を読む―護憲の旗を掲げて 四六版上製二百頁、千五百円(三百十円)

No.627(一九九六年二月一日号)

◇巻頭言◇ 展望のない社民党、党建設本格化の新社会党

上野 建一

資料「新社会党・平和連合」アピール

新社会党への参加・協力を訴える

迫りきたる一大攻撃と対決して

坂牛 哲郎

―労働運動・政治闘争を第一歩から①―

国鉄闘争・反基地反安保闘争勝利の年に

稲村 守

―沖縄と北海道―

歴史科学日社会科学の課題

中澤 秀行

―階級および階級闘争・護憲について③―

いかなる状況下でも解決策を探す

富山 栄子

―社会主義とその成果守るキューバー―

投稿三島地区「新社会党・平和連合」準備会が発足

読者からのおたより編集部日より

◇好評発売中 上野建一著 社会通信社刊◇

政界再編後を読む―護憲の旗を掲げて 四六版上製二百頁、千五百円(三百十円)

No.628(一九九六年二月一日号)

◇巻頭言◇「反独占」「リベリズム反対」が

労働運動の進路①

大衆運動のなかで「新社会党」建設を

上野 建一

―「新社会」週刊紙の役割は大きい―

人権切り捨て、大量失業の時代へ

坂牛 哲郎

―さし迫る一大攻撃に対応して②―

まず自己変革にとりくむ

赤穂 播

―何が問われているのか―

やった!「日刊乗務」七千号達成

大嶋 甲三

―一九七六年の創刊以来、たたかいの武器に―

◇読者からのおたより 編集部日より

「新社会党」結党大会のご案内

◇残部僅少上野建一著社会通信社刊◇

政界再編後を読む―護憲の旗を掲げて

四六版上製二百頁、千五百円(三百十円)

No.629(一九九六年二月二一日号)

◇巻頭言◇「ベア・ゼロ」から大量失業の嵐の時代へ

「住専」は支配階級の矛盾と危機の現れ

― 血税を出すのはナンセンス―

◇投稿◇「社民党」強化論者の嘘八百

国労バツヂ裁判、不当な判決

― 国労バツヂをめぐる三一七四日間の攻防―

資料1 「新社会党・平和連合」に合流

資料2 「新社会党」の党づくりの

基本と当面の組織方針

神戸が問いかけるもの

― 阪神・淡路大震災と住宅復興をめぐって①

読者からのおたより

新社会党が三月三日、全国結成大会

午後一時より、日本青年館で

No.630(一九九六年三月一日号)

◇巻頭言◇ 三月三日、「新社会党」全国結成大会

その意義と課題

「新社会党」いよいよ本格発進―党づくりの基本的課題―

自治体労働者の階級的使命

― 唯物史観の立場から―

労働者の犠牲で企業生き残り

― NTTの「分離・分割」と合理化―

問われる「経済大国」の内実

― 阪神・淡路大震災と住宅復興をめぐって

巻原発・住民投票

― 九六巻町長選挙から―

死者はいつまでも若い

― 「きけわだつみのこえ」(新版)を読んで―

「新社会党」の未来は無限―

「読売」意識調査から

読者からのおたより

◇残部僅少上野建一著 社会通信社刊◇

政界再編後を読む―護憲の旗を掲げて

四六版上製二百頁、千五百円(三百十円)

毛利 孝雄

中澤 秀行

沖田 和夫

毛利 孝雄

坂井 雅之

近江谷 左馬之介

No.631(一九九六年三月一日号)

塩屋崎 あき江

◇巻頭言◇ 躍動の一年をめざして

「さきがけ」との新々党構想崩れる

―社民党に再び大きな危機―

私鉄総連を軸につづく攻防

―九六春闘、現局面の特徴―

一見は百聞にしかず

―「沖繩の歴史と闘いに学ぶ旅」から―

働く者の生清が奪いとられる中で

―労働雇用ホットラインの活動から①―

一九九六年を国鉄闘争勝利の年に

―累積する国鉄「分・民」の矛盾―

読者からのおたより

◇残部僅少上野建一著社会通信社刊◇政界再編後を読む―護憲の旗を掲げて

四六版上製二百頁、千五百円(三百十円)

No.632(一九九六年三月二一日号)

◇巻頭言◇たたかう勇気を与え「弱者」を守る党であれ

「新社会党」全国大会からの思い

N T T分割から郵政三事業民営化

―規制緩和とN T T合理化―

新社会党はどういう党をめざすか

完全な保守政党への道を急ぐ社会民主党

―社民党「第一号議案」の特徴―

資料1「新社会党」大会アピール(九六・三・三)

―徹底して民主主義の社会追求

企業内労働運動克服への一歩

小西 純一郎

―労働者雇用ホットラインの活動から②―

血税は「住専」ではなく被災者へ

―大震災の被災地から訴える―

◇国労留萌闘争団からのおたより◇

「十五の目標」達成で勝利めざす

読者からのおたより

◇残部僅少上野建一著社会通信社刊◇

政界再編後を読む―護憲の旗を掲げて

四六版上製二百頁、千五百円(三百十円)

No.633(一九九六年四月一日号)

◇巻頭言◇政党支持率と日本政治のゆくえ
歴史の発展と人間のいとなみ

中澤 秀行

―階級関係ということ―

内外の「社民党の変質」に学ぶもの
企業内複数組合でチェック、競合を

上野 建一
濱崎 忠晃

―「労働運動に一言」―

「新社会党」の「初仕事」！？沖縄闘争

佐々木 守雄

―矢田部委員長を先頭に―

キューバは空、海、土地、旗は犯させない ―米民間機墜落事件の真相―

◇投稿◇批判の時代から責任の時代へ

読者からのおたより

◇残部僅少上野建一著社会通信社刊◇政界再編後を読む―護憲の旗を掲げて

四六版上製二百頁、千五百円(三百十円)

No.634(一九九六年四月一日号)

◇巻頭言◇「百円玉」に一喜一憂でいいのか

新社会党に結集し、労働運動再建を 坂牛哲郎 ―全労働者に訴える―

新社会党「党建設」の原則 上野建一―何よりも行動、大衆運動を大切に―

吉元副知事との九年ぶりの再会―「沖縄の心」にふれて―

許せないCO協定の破棄

革マル主導のJR東労、ついに瓦解か！？ ―JR労働戦線再編成の序曲か―

読者からのおたより

◇残部僅少 上野建一著社会通信社刊◇政界再編後を読む―護憲の旗を掲げて

四六版上製二百頁、千五百円(三百十円)

No.635(一九九六年四月二一日号)

◇巻頭言◇ 日米安保「再定義」と憲法「改正論」

◇米国防総省「東アジア戦略報告」から◇

日米二国間安保はめざましく強化 ―思いやり予算(五〇億ドル)を高く評価

福田 徹

大倉電気裁判闘争ご一年 ―その特徴と意義①

◇資料 と解説◇九六春闘回答へのJC、日経連コメント

資料1 文字どおりJC共闘の成果(JC)

資料2 構造改革春闘が明確に(日経連会長)

◇新社会党「党員産別交流会」報告(上)◇労組党員の自覚で新しい労働運動を

◇投稿◇「新社会党」結党大会の成功を祝す

◇投稿◇常識の「ウン」

読者からのおたより

◇残部僅少上野建一著 社会通信社刊◇政界再編後を読む―護憲の旗を掲げて

四六版上製二百頁、千五百円(三百十円)

No.636(一九九六年五月一日号)

巻頭言◇ 大転換期、〃時代を楽しむ〃読書を

「普天間」の見返りに基地強化ねらう―事実上の安保改訂すすむ―

猛烈な資本の輸出と有事体制―アジア情勢の特徴と日本―

がんばる国労闘争団、さらに支援・連帯を 国鉄闘争は人権問題(留萌闘争団)

清算事業団債務、「住専」のウン十倍(新得会議)

たくましく成長する子どもたち(稚内闘争団)

今年も長野県共闘会議来訪(紋別闘争団)

四地区報告集会に八百人参加(博多闘争団)

「国鉄ⅡJR」の借金は住専の三〇倍

―「国鉄分割・民営化」九年と九州のたたかいから―

相手がトップ・ダウンなら、徹底してボトム・アップを

―新社会党「党員産別交流会」報告(下)

孤立から対峙へ、対峙から包囲へ―大倉電気裁判闘争三年②―

「大量失業時代」到来の四つの条件

読者からのおたより

No.637(一九九六年五月二一日号)

◇巻頭言◇ 野茂「トルネード」に

勝る首切り「タイフーン」―百円玉で首切り認めていいの、

九六春闘総括―大量失業の時代と世界の労働運動

―労働運動二つの傾向(上)―

「命(又チ) どう宝」(命こそ宝)―沖縄から訴える土地の

強制使用を許さない東京集會―

世界の女性たちと共に―「均等法」十年の日本の女性たち―

社民党再び分裂の危機―北海道新党動き出す―

読者からのおたより

◇誌者をご紹介ください

No.638(一九九六年六月一日号)

◇巻頭言◇ 労働組合と政党との関係について①

◇投稿◇われ先駆者たらん ―激動の代、政治に信頼とロマン―

自民党ハト派も集団自衛権を認める―解釈改憲・官沢氏の本質バクロ―

アメリカ労働運動に新しい息吹 ―大量失業の時代と世界の労働運動(中)

〃組合主義〃を克服し階級的、政治的運動へ ―労働運動「敗北」の教訓から―

◇資料と解説(日経連の九六春闘総括)◇「春闘の構造改革」への芽を潮流に

各地で創意つくしたメーデー進む

◇読者からのおたより

◇編集部だより

◇上野建一著社会通信社刊◇政界再編後を読む―護憲の旗を掲げて

四六版上製二百頁、千五百円(三百十円)

No.639(一九九六年六月一日号)

◇巻頭言◇ 労働組合と政党との関係について①

国鉄闘争勝利中央集會に総結集しよう — 六月二六日午後六時、代々木公園へ —
新社会党の存在意義と任務と運動 — 第一回全国代表者會議と政治情勢の特徴
「リベラリズム反対」が

フランスのストライキ — 大量失業の時代と世界の労働運動(下)

チエルノブイリ事故から十周年 — 日本の現実に照らして —

ふえることはあれ、減ることとはなし — 日本とアメリカの失業統計比較 —
原発移行を早める政府のエネルギー政策 — 三池炭鉱閉山のもう一つの面 —
読者からのおたより

◇上野建一著社会通信社刊◇政界再編後を読む — 護憲の旗を掲げて

四六版上製二百頁、千五百円(三百十円)

No.640(一九九六年六月二一日号)

◇巻頭言◇ 労働組合と政党との関係について③

ユーザー無視の廃局計画 — なぜ銚子無線廃局に反対するのか —

再稼働は絶対阻止しなければ! — 動燃「もんじゅ」見学会に参加して —

橋本政治は新保守主義へ進む — 村山内閣下で自民政権の準備を果たす —

「エリツイン時代の終わり」の始まりか — 注目のロシア大統領選挙 —

◇投稿◇日米安保は 日本軍拡阻止のビンのフタ!?

読者からのおたより

「社会通信」読者をご紹介ください

No.641(一九九六年七月一日号)

◇巻頭言◇ 政界再編は世界の傾向

ドイツにおける「雇用のための同盟」 — 大量失業時代と労働運動(補) —

沖繩との交流・連帯で学んだもの — 沖繩県議選と基地返還のたたかい —

労働組合運動の危機

オンライン化で労働強化は一挙に加速 — 図書館職場の現状と運動の展望 —

◇投稿◇国鉄闘争勝利を

「社会を変えるステップ」に

資料国鉄「分割・民営化」の破綻は

明らか(新得連帯集會アピール)に

◇投稿◇社会主義運動には

「やせがまん」が大切

◇読者からのおたより◇編集部だより

「社会通信」読者をご紹介ください

No.642(一九九六年七月二一日号)

灰原 茂雄

◇巻頭言◇総括運動と「次のたたかい」

今日における「敵」とは何か(上) — 教育現場から考える —

反消費税運動を恐れる自・社民・さ — マスコミに負けない世論を構築しよう —

毎日、食べて働き、「牛か馬か」

— 生活とは仕事とは何だろう —

「レーニンの秘密」(上下)を読む

ドミトリー・ヴォルコゴノフ著、NHK出版刊 —

◇読者からのおたより◇編集部だより

「社会通信」誌者をご紹介ください

No.643(一九九六年七月二一日号)

◇巻頭言◇一粒の麦・歴史

塩屋崎 あき江

巻原発・住民投票

坂井 雅之

— 三月以降のたたかいから —

日本におけるリストラ合理化の現状

設楽 清嗣

— 管理職ユニオンの対応(上) —

◇今日における「敵」とは何か(下)◇

産業構造の転換が教育政策に直結

大労組の先導で動き出した鳩山新党

— 社民党は流れ解散の方向 —

資料選挙前に「民主リベラル新党」を(社民党を連帯する会)

読者からのおたより

七月二三日午後六時飯田橋・中央労政会館

巻町住民投票成功させる

東京支援集会にご参加を

No.644(一九九六年八月一日号)

◇巻頭言◇ いよいよ「秋の陣」、何としても勝ち抜く

佐久間 誠

ESSAY試論①山川均に学ぶ党建設

上野 建一

問われる組織のあり方

設楽 清嗣

— 管理職ユニオンの対応(下) —

いわゆる「方針見直し」から

二年めに入った日教組 — 新潟県湯沢で開催された第八二回大会 —

前途多難なエリツイン政権

企業別組合を階級的に作り直す

鈴木 賢二

— 労働運動再建にむけた課題 —

本誌の読者をご紹介下さい

No.645(一九九六年八月一・二一日号)

◇巻頭言◇「漂流する労働組合」

ESSAY試論②山川均に学ぶ党建設

世界資本主義の構造的転換 — 日本労働運動をめぐる情勢と課題 (上)

資料日経連が政府規制の撤廃・緩和を要望

◇国労大会から(中央執行委員長あいさつ)◇

国鉄闘争をめぐる現局面について

◇国労大会から①飯島代議員の発言◇

「悪魔のサイクル」を打ち破る

だれのための政治・政党 — 職場生産点の怒り—

◇読者からのおたより◇編集部日より

「社会通信」誌者をご紹介ください

上野 建一

No.646(一九九六年九月一日号)

◇巻頭言◇せまる総選挙、社民党の運命は？

小さな町の大きな選択

— 巻原発、八月四日住民投票から—

変わる日本の労働組合

— 労組大会、いくつかの特徴(上)—

ESSAY試論③山川均に学ぶ党建設

片山・芦田内閣崩壊の教訓

◇私の職場報告東京・清掃職場から◇強まる定数削減と労働強化

読者からのおたより

読者をご紹介ください

坂井 雅之

滝野 忠

上野 建一

No.647(一九九六年九月一一日号)

◇巻頭言◇「朝鮮有事」の危機管理より支援で平和を

労組は保守と「不倫の恋」

— 組合大会の特徴、政党支持問題(下)—

沖縄、朝鮮半島、そして目米安保

— G7による世界支配の構造—

中曽根政治を真似る橋本政権

やっぱり消費税アップには反対です — 私は四二歳、五五で定年です?—

「青い鳥(ブルーバード)」は見つかるか — はやくも不吉な鳥「カラス」が登場—

資料日経連「ブルーバードプラン」

雇用の安定と実質生活向上を実現

◇読者からのおたより

「社会通信」誌者をご紹介ください

◇編集部日より

滝野 忠

若林 ひろし

No.648(一九九六年九月二一日号)

◇巻頭言◇ 歴史的激動期、時代はどう動く①
醒めた雰囲気、職場と本部のかいり拡大書

—政治より「合理化」に議論集中 —自治労大会—
鳩山新党に「動揺と日和見」の社民・労組
ルイさんとルイズ・ミシエル

国労がJR七社に紛争解決・労使正常化申し入れ
資料紛争の全面解決と労使関係正常化の申し入れ(国労、八、三〇)
不当な解雇を撤回し、四名の原職復帰を

—「泉コン闘争支援全国代表者会議」開く
寅さん楽しい映画をたくさんありがとう

書評『人はなぜ闘うか』(横浜人活事件の記録)

◇読者からのおたより◇編集部だより

『社会通信』本誌の読者をご紹介ください

No.649(一九九六年一〇月一日号)

◇巻頭言◇「規制緩和」の三つの概念

「分党」から「残党」となる社民・さの両党 —分解を党議で決める社民党—

◇ESSAY試論④山川均に学ぶ党建設◇
日本ファシズムと指導者

分裂の噴煙納まらぬ丁R総連・東労組

—革マル支配労組の誕生は労働戦線再編への序曲—

◇国労闘争団家族からの報告◇

若者たちへ伝えてほしい

規制緩和と労働運動 —ドイツの場合(上)—

◇投稿◇労働運動と「トロイの木馬」

「支持なし」拡大と職場労働者

◇書評◇歴史としての野坂参三(和田春樹・平凡社)他

◇読者からのおたより ◇編集部だより

『社会通信』本誌の誌者をご紹介ください

No.650(一九九六年一〇月一日号)

◇巻頭言◇ 労働大衆の現実に依拠したたかう

—総選挙への基本視点—

民主党は総保守体制への接着剤

—日本政治の基本動向とわれわれの任務—

国有林事業の民営化論と全林野の闘い —山男たちの辛苦のたたかいを忘れまい—

財政緊縮法案に「熱い秋」を宣言—規制緩和と労働運動 —ドイツの場合(中)—

川柳 介護法なくては困る党ばかり

◇読者からのおたより ◇編集部だより

『社会通信』本誌の誌者をご紹介ください

松枝 佳宏

坂牛 哲郎

No.651(一九九六年一月二一日号)

◇巻頭言◇ ソ連崩壊から五年、いま世界は

「社会党・総評ブロック」の終焉

—自治労臨時大会傍聴記—

資料1 「連帯する会」「推進労組会議」合同単産代表者会議

「民主党支援」を墓軸にたたかう(九六・九・一九)

資料2 自治労選挙闘争方針(九六・九・二九) 労働組合の団結重視

資料3 連合と政党との関係について(九六・一〇・三)

民主、新進党を中心に社民、さきがけとも「協力・協調」

多国籍企業下の労働組合の役割痛感 —友情と連帯深めた訪米交流—

◇投稿◇プロレタリアのイデオロギー—

—われわれの運動についての試論—

『首切り』は正義と政府関係文書は主張

反失業、反差別の連帯の取り組み強める —嵐のように進む会務員のパート化の波—

◇書評◇国際スパイゾルゲの

真実・引き裂かれたスパイ

◇読者からのおたより

◇編集部だより

No.652(一九九六年一月一日号)

◇巻頭言◇ 現代と「クラルテ」運動

—ソウルへの旅「総評・社会党ブロック」激動の中で

『社会通信』の二〇年(上)

社会主義の実現に向け進むキューバ —経済の後退は終わり、改革へ—

日経連の方針に追従する連合主流 —鉄鋼労連、JC等の大会の特徴—

病欠手当削減に反撃開始 —規制緩和と労働運動—ドイツの場合(下)

「改憲勢力」がじつに九割超に —総選挙結果について—

◇読者からのおたより◇編集部だより

『社会通信』本誌の読者をご紹介ください

No.653(一九九六年一月十一日号)

◇巻頭言◇ 新社会党への強い期待、組織・人材づくり急務

川村 洋一

一党支配体制の確立めざす自民党政権 —「閣外協力」より本格野党が必要—

「ゼロからの出発」強大な党の建設を —広島からの報告・総選挙を闘って—

◇『社会通信』の二〇年◇

労戦再編成国鉄「分割・民営化」が社会党支持基盤を直撃

滝野 忠

社会党・総評ブロック崩壊の原因はなにか —政党と労働組合の関係について—

総パート化をみせつけた「スーパードの女」

◇労働運動の再生を展望して◇

「酒場労働運動」「酔いどれ社会主義」からの脱却を

町田 一男

—障害を持つ労働者の立場から—

◇編集部だより

◇川柳

◇読者からのおたより

No.654(一九九六年十一月二一日号)

◇巻頭言◇「行革火ダルマ」内閣とヨーロッパのストライキ

社民党は自民党補完勢力化へすすむ — 新社会党は「中期計画」の策定を —
激動期はさらにつづく、出番をつくろう — 総選挙総括と新社会党の進路⑤

いじめはさらに陰湿に — 第二回「職場いじめ一〇番」に相談殺到 —

乱読、ツン読、私の読書

国鉄債務二八兆円処理に大増税は必至 — 国民負担二四兆円、住専の四〇倍 —

◇読者からのおたより

◇編集部だより

No.655(一九九六年十二月一日号)

◇巻頭言◇ 総選挙の総括にあたって

藤沢 晃

三池炭鉱閉山と三池の労働者運動

宮崎 勝

— 働く者の権利を奪う閉山は許せない —

橋本行革は最悪の反動路線 — 反合理化闘争の再構築を —

◇座談会◇「下から」運動づくり、全階層に切り込む

— 総選挙総括と新社会党の進路⑥ —

総選挙闘争をたたかかって — 全国からの報告 —

国民が政治の手術を(大牟田) / さわやかに六千六百九十一票(京都) / 三百十一票
を土台に(奈良) / 若者の心をとらえる(自治労) / 党組織建設に芽(新潟) / 労組
と選挙、政党支持(協病労組帯広支部) / 狸に化かされた総選挙(名寄) / 総括の徹
底を(兵庫)

編集部だより

No.656(一九九六年十二月十一日号)

◇巻頭言◇ 指導の理論

木村 哲蔵

公的医療機関の職場合理化

北村 光明

民主党はどういう党か①

「寒風」にさらされる北海道の党運動

減少つづく北海道社民黨員 — 民主党移行でさらに増大? —

資料民主党との団結中心に

あらたな組織をめざす(民主・リベラル推進労組会議)

徹底した討論で「未来を開け」

— 新社会党中央委員会から —

労働者大衆との新しい関係をつくり出す

— 新社会党兵庫県本部の選挙総括案 —

女子保護規定撤廃を確認

— 九七春季生活闘争要求は一万三〇〇〇円

◇読者をご紹介ください

◇編集部だより

No.657(一九九六年十二月二十一日号)

巻頭言◇ 行革、規制緩和とたたかう

ニュージールランドの

規制緩和・行革⑤

職場分会の力が労働運動の原点

―「原則の闘い」で戦闘開始―

◇私の職場報告◇

慢性的な残業、つもる不安(自治体職場)

◇私の職場報告◇

分会活動から国労運動構築へ

◇投稿◇形成されつつある?一つの傾向

労働者とともに闘う新社会党づくりを

女性労働と母性保護

―失業者増大で家庭、社会は―

◇私の読書◇『日本の歴史』

◇編集部だより◇読者からのおたより

松原 広

上野 義昭